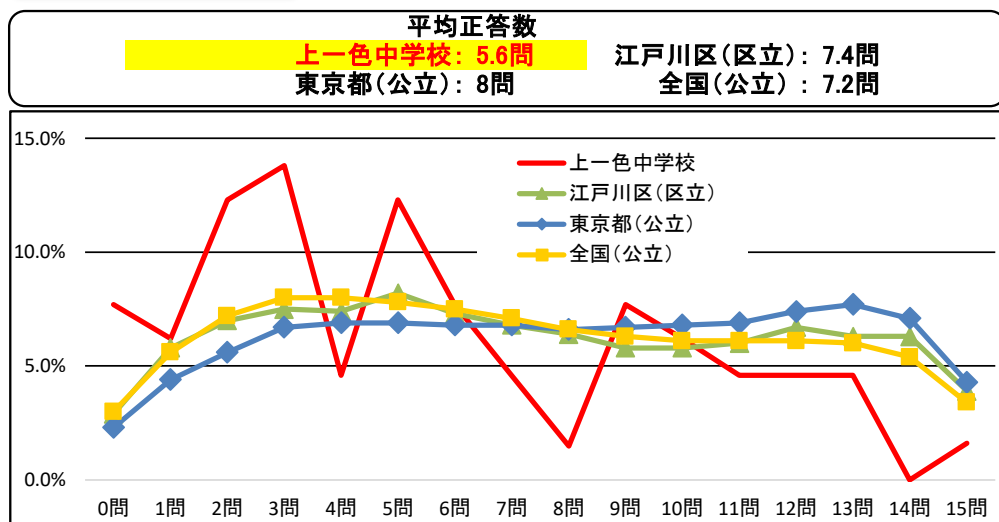


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【数学】 上一色中学校

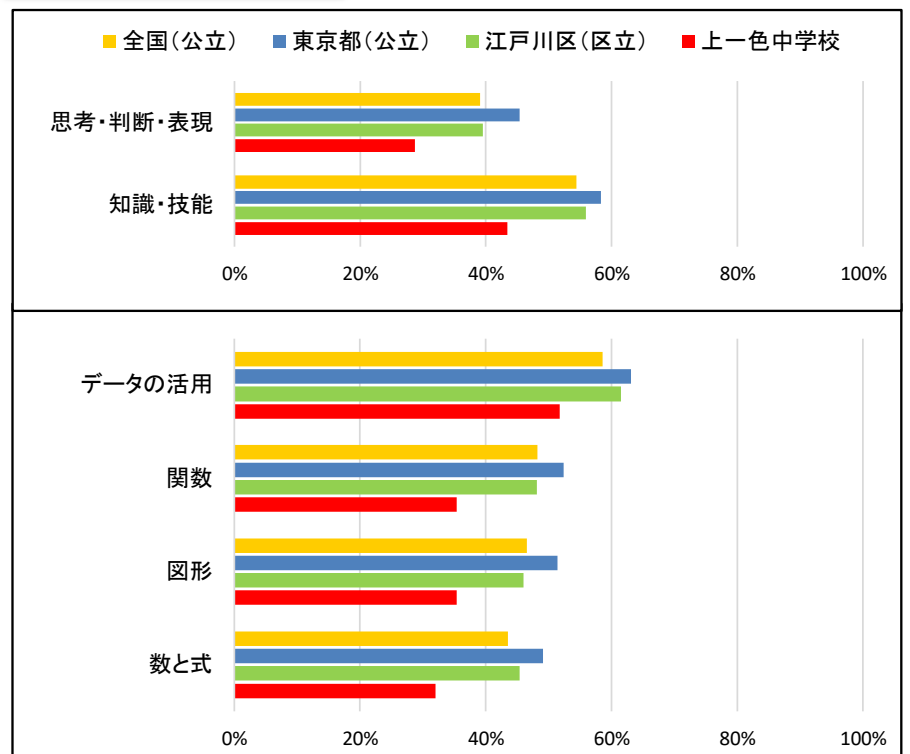
正答数分布



【平均正答率の差】

上一色中学校	38%
江戸川区(区立)	49%
東京都(公立)	53%
全国(公立)	48.3%
都との差(ポイント)	-15.0

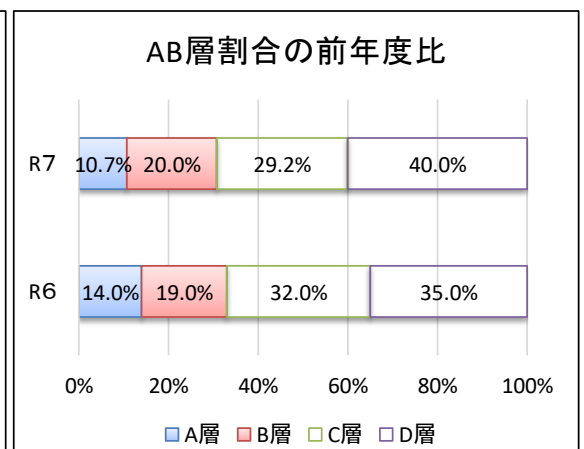
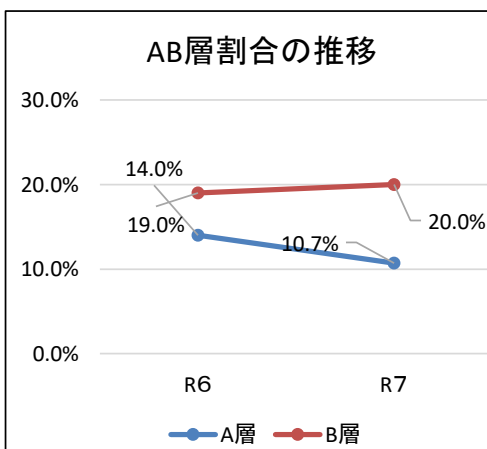
「領域別」の結果



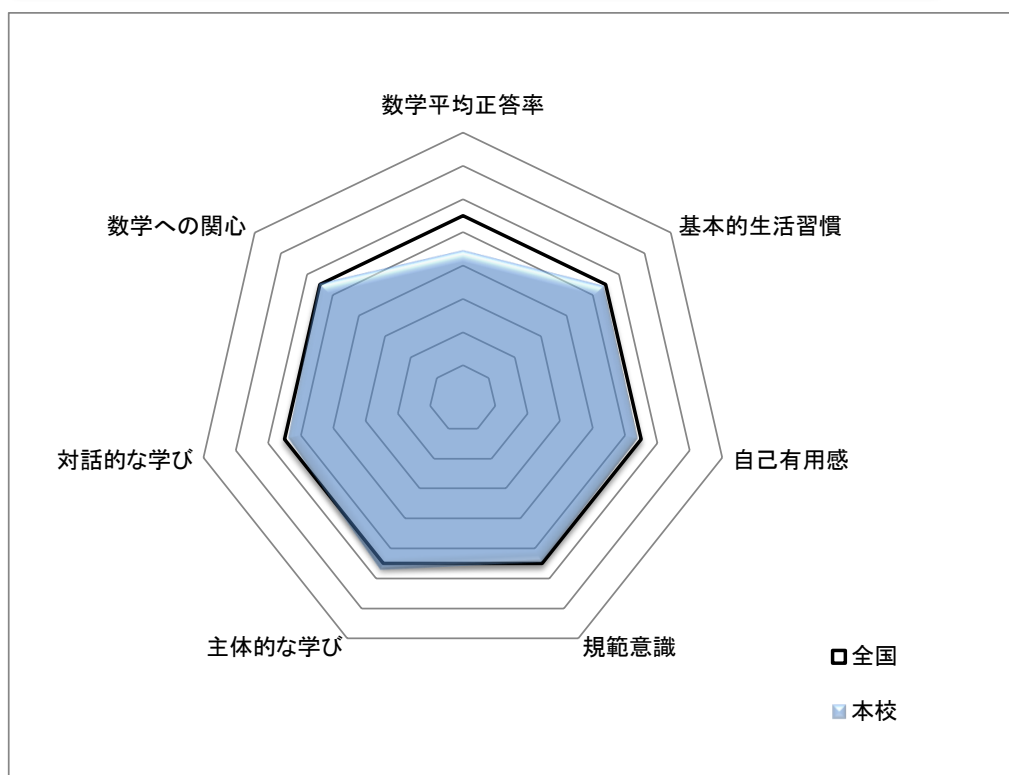
四分位における割合（都全体の四分位による）

数 学	上位 ← 下位			
	A層 12～15問	B層 8～11問	C層 4～7問	D層 0～3問
上一色中学校	10.7%	20.0%	29.2%	40.0%
江戸川区(区立)	23.2%	24.0%	29.6%	23.2%
東京都(公立)	26.5%	27.0%	27.5%	19.0%
全国(公立)	20.9%	25.1%	30.2%	23.8%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

基礎コース、標準・発展コースとも数学への関心や主体的に学ぶ姿勢、積極的に取り組む態度は高く、主体的・対話的な授業や学習集団が形成されている。習熟度が近い生徒での教え合い、学び合いのグループ活動が多いが、親和的な集団での学習活動が実践され、お互いに高め合う環境が構築されている。

他教科と同様に学習や授業への関心は高いが、平均正答率が低いという結果が出ている。家庭学習習慣や反復学習の方法、基礎・基本の確実な定着が課題である。

《家庭・地域への働きかけ》

授業での課題について、小テストや基礎・基本テストなど、学年だよりや三者面談等で学習の積み重ねによる基礎の定着が大切であることを伝えている。また、保護者会・三者面談等で、現状の学力や学習状況の課題を説明し、学力の定着には家庭での協力が必要であり、質問・補習教室で、定期考査前の反復学習を習慣づけ、よりよい学習方法について、問題点や課題を共有し、家庭学習の習慣化を働きかける。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について

昨年度と比べてB層は1.0%増加したが、A層は3.3%減少している。学年集団が変わったが、発展コースを中心としたAB層の割合は変わっていない。主体的・対話的な教え合い学習や、習熟度による自己の向上意識を高める演習課題を繰り返し提示することで、数学的思考が高まっている。AB層の学力向上と、基礎・基本の確実な定着が課題であるCD層の底上げを図っていくため、習熟度の各コースの人数やメンバーを定期考査ごとに工夫・調整している。また、観点別では、全体では知識・技能、思考・判断・表現とも全国や都の平均との差はあまり変わらないため、AB層も基礎・基本の授業の理解・定着を大切にして、応用・発展の問題にバランスよく取り組めるようにしている。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

各学年担当1名の教員が中心となり、コースごとの授業展開、演習問題・家庭学習課題の提示、デジタル教科書等のICT機器の活用方法など、定期的に授業進度や授業内容を調整・確認する時間を確保している。また習熟度別による、定期考査の結果や単元別テスト、小テスト、実力考査の結果などを分析し、学力の定着・向上につなげている。その結果を加味して生徒の理解度や学習状況を把握し、適切なクラス構成に応じた学習指導方法か、または教科部会では定期考査の問題について、評価方法について適切であるか、検討を行い、互いの授業力向上に努めている。

・基礎学力の保障

基礎・基本の学力の定着に向けて習熟度別クラスによって、目標と取組方法を明確に定める。具体的には、基礎コースは演習での反復学習を継続し、質問・補習教室で補いながら、丁寧かつきめ細かい指導を継続して行っていく。発展コースについては主体的に課題を設定させ、思考・判断・表現の観点における発展・応用の内容について、少グループによる教え合いや一人一台端末を活用した、個々の考え方を全体へ共有する活動を実践し、基礎的な内容の理解から、数学的思考力の育成につなげている。

・学習習慣の確立

基礎コースは、小テストや計算コンテスト、単元別テストで、放課後等の補習で合格するまで継続して指導する。また、習熟度に応じた家庭学習課題を提示し、授業と並行して行うことで学習習慣を確立する。類似問題による補習・反復学習を行い、基礎の定着を達成目標にしてい。発展コースは、個から集団、全体への共有活動を意識し、主体的に活動する場面を増やしていく。思考・判断・表現等、発展問題に積極的に取り組み、学力向上の目標を個々で設定し、問題の読み取りや考えを説明する力の向上を目標に家庭学習習慣の定着につなげる。

・AB層の育成

授業で自己の課題を振り返る時間の設定、ICT機器等を有効活用し、学力向上につながる効果的な方法を実践し、家庭学習習慣や基礎の内容の定着から、自己肯定感を高めることで、積み重ね学習や、応用・発展問題へのチャレンジ精神を醸成する。

・生徒授業評価で肯定的な評価90%以上の満足度である、生徒が主体的に取り組める授業を実践して自信をもたせ、教員の補習教室や放課後補習(EDOスク)、区が提供している学習指導が受けられる場に参加し、学力の向上を実現する。